

【2026 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
臨床人間学スタディーズ		選択必修	2	2.3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
宇賀 美奈子	B302	m.uga	火曜日 12:10~12:50		
授業の目的・概要	<p><目的>高度に専門性と複雑性を包含した現代社会では、人格を配慮した人間性の理解と人間関係の構築を実践できる社会人になるには、自律的かつ能動的な思考及び判断力が重要となる。本科目では、地域へ意欲的に貢献できる社会的人材を養成するため、PBL スタイルの授業により、学生の自律的かつ能動的な思考及び判断力を涵養することを目的とする。</p> <p><概要>問題解決型 PBL (Problem-Based-Learning) の授業を展開する。特定の問題テーマを教員が提示してグループで問題解決することを通して、自律的かつ能動的な思考及び判断力を培うためのスキルを体験的に習得させる。本科目では、医学・社会学・心理学等の素養で構成される学際的領域「臨床人間学」に関するテーマを問題の題材に取り上げる。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	授業全般を通して、PBL スタイル特有の積極的な受講姿勢が必要となります。受け身的な学び方を排して、この授業から大学生としての学び方を飛躍させる熱意と好奇心を高めましょう。				
教科書	教科書は特に指定しない。				
参考書	「大学1年生からのプロジェクト学習の始めかた」常磐拓司・西山敏樹 (著) 慶応義塾大学出版会				
外部教材	必要に応じて適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	複雑な現実社会の問題を批判的に考えて分析し、解決策を見出すことができる。			HSU (2) (3) (5)	
②	解決に適する情報や資源を探索して、解決策の立案に活用できる。			HSU (2) (3) (5)	
③	チーム・グループの仲間と積極的に協働して解決に挑むことができる。			HSU (4)	
④	多面的かつ効果的な工夫を凝らして、成果を発表することができる。			HSU (4)	
⑤	他者から評価されるという視点を意識して、自分の活動を振り返ることができる。			HSU (6)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション~PBL スタイルを知る~ グループで協働するための技法を体験的に学ぶ	講義・演習	活動評価表を作成する。	2	
2	問題提示型 PBL : 練習「健康科学大学の教育改善計画」① ~問題の現状理解と分析~	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	3	
3	問題提示型 PBL : 練習「健康科学大学の教育改善計画」② ~解決策の立案、発表~	PBL	活動評価表を作成する。発表会の準備を行う。	3	
4	問題提示型 PBL : 本番①~問題提示と情報収集・整理~ (2025 年度実績: 理想の寿命社会)	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
5	問題提示型 PBL : 本番①~問題の現状理解と分析(1)~	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
6	問題提示型 PBL : 本番①~問題の現状理解と分析(2)~	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
7	問題提示型 PBL : 本番①~解決策の立案~	PBL	活動評価表を作成する。発表会の準備を行う。	6	
8	問題提示型 PBL : 本番①~発表会~	PBL	活動評価表を作成する。	2	
9	問題提示型 PBL : 本番②~問題選択と情報収集・整理~ (2024 年度実績: ゲノム編集、住むべき場所、仮想空間)	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
10	問題提示型 PBL : 本番②~問題の現状理解と分析(1)~	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
11	問題提示型 PBL : 本番②~問題の現状理解と分析(2)~	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
12	問題提示型 PBL : 本番②~解決策の立案~	PBL	活動評価表を作成する。発表会の準備を行う。	6	
13	問題提示型 PBL : 本番②~事前発表会~	PBL	活動評価表を作成する。発表会の振り返りを行う。	3	
14	問題提示型 PBL : 本番②~批判的再検討~	PBL	活動評価表を作成する。発表会の準備を行う。	6	
15	問題提示型 PBL : 本番②~最終発表会~	PBL	活動評価表を作成する。PBL 個人レポートを作成する。	5	

【2026 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照		
---	----------------------------	--	--

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	10	20	0	70	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	10	10
	思考・推論・創造する力	0	5	0	0	15	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10
	発表・表現伝達する力	0	0	20	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	15	15
問題を発見・解決する力		0	5	0	0	10	15

評価方法		行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①	✓	PBL 授業の全体を通して自らが取り組んできた活動の全てを活かして、指定された PBL テーマについて問題点の整理及び解決策を提言するレポートを個人で作成する。レポート作成の基本形式は修得している前提として、問題発見とその解決を導く創意工夫を評価する。	コメントを付して返却する。
	②	✓		
	③			
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	✓	グループで取り組んだ PBL の成果を発表して評価を受ける。 テーマ：本番①の発表会 5 点、本番②の事前発表会 5 点、最終発表会 10 点の配分を割り当てる。	評価はコメントを付して、自己（自分）及びグループともに返却する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	✓	PBL 授業の全ての回で、自己（自分及びグループに対する評価と記録）の活動への取り組みを記録・評価した活動評価表の提出を求める。また、グループメンバーからの他者評価を受けることも含まれる。 活動評価表が期限までに提出されない場合、その回は欠席と扱われる場合がある。	評価は次の活動に活かせるようコメントを付して返却する。
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤	✓		
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	向山 秀、升 佑二郎
教員の実務経験	
実践的授業の内容	
そ の 他	<p>2026 年度は「臨床社会学スタディーズ」「臨床人間学スタディーズ」のみ開講する。15 回設計であり、PBL を授業内で丁寧に学ぶ科目である。そのため、本科目はグループ活動への積極的参加が大前提であり、原則として全ての回に出席すること。参加意欲に乏しく、活動記録の未提出多数により再試験になると、相応量の再試験課題が出るため、単位取得が困難になり得る事態を覚悟すること。なお、各スタディーズは定員を 36 名として、さらに以下の受講条件を設ける。したがって、ガイダンス期間の履修指導に十分に理解して登録すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期：「臨床社会学スタディーズ」1 クラスは、昨年度の GPA が 3.0 以上の者に限る。 ・後期：「臨床社会学スタディーズ」1 クラス、「臨床人間学スタディーズ」1 クラスは、ともに制限無し。止むを得ずシラバスの変更が生じる場合は授業・Teams 等で周知する。